

成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの強化のための研究

研究分担者 三重県立一志病院 丸山貴也

研究要旨：人口ベースで成人の侵襲性細菌感染症を評価する体制を構築することで罹患率が算定でき、その特徴を解析することで、より適切な治療、予防を確立することができる。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

(分担研究報告書の場合は、省略)

A. 研究目的

1. 三重県の医療機関で発症した成人の侵襲性細菌感染症を評価する体制を構築する。
2. IPD, IHD, STSS, IMDと診断された症例の患者情報と菌株を収集し、感染症研究所で莢膜型、遺伝子型、薬剤感受性などを精査する

B. 研究方法

1. 三重県の基幹定点医療機関9施設+1施設については保健環境研究所で菌株、患者情報を一括して収集し、国立感染症研究所へ送付する。
2. それ以外の医療機関については、三重県立一志病院で菌株を収集し、国立感染症研究所へ送付する。

(倫理面への配慮)

本研究では、必要な検体は研究参加前に採取、保存されている菌株を用いるため、予想される不利益は少ないものと考えられる。

C. 研究結果

三重県在住者では、令和4-6年度(3年間)でIPD 35例、IHD 12例、STSS 42例、IMD 1例が集積された。IPDの莢膜型は35B型:2例、3型:2例、m19A:1例、23B:1例、15A:1例の頻度が高かった。

D. 考察

コロナ禍から、コロナ明けの比較により、COVID-19に対する感染対策により侵襲性細菌感染症は減少したが、緩和により再び増加していることが明らかとなった。

E. 結論

研究は長期になるが、協力していただけない医療機関は無く、行政、医療機関共に多大な協力をいただいている。今後も引き続き行政、各医療機関と連携をとり、菌株と臨床情報の収集につとめる。

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表
2. 学会発表

丸山貴也、肺炎診療のガイドライン
新しい成人肺炎診療ガイドライン2024について肺炎の予防：新しい肺炎球菌ワクチンの展開、第64回日本呼吸器学会
学術講演会

丸山貴也、モーニングセミナー1：新規ワクチンによる高齢者感染症の予防戦略 成人における肺炎球菌感染症予防の重要性、第28回日本ワクチン学会・第65回日本臨床ウイルス学会合同学術集会

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
2. 実用新案登録
3. その他